

TPC マーケティングリサーチ株式会社

世界のワクチン市場について調査結果を発表

この程、TPC マーケティングリサーチ株式会社（本社＝大阪市西区、代表取締役社長＝川原喜治）は、世界のワクチン市場について調査を実施、その結果を発表した。

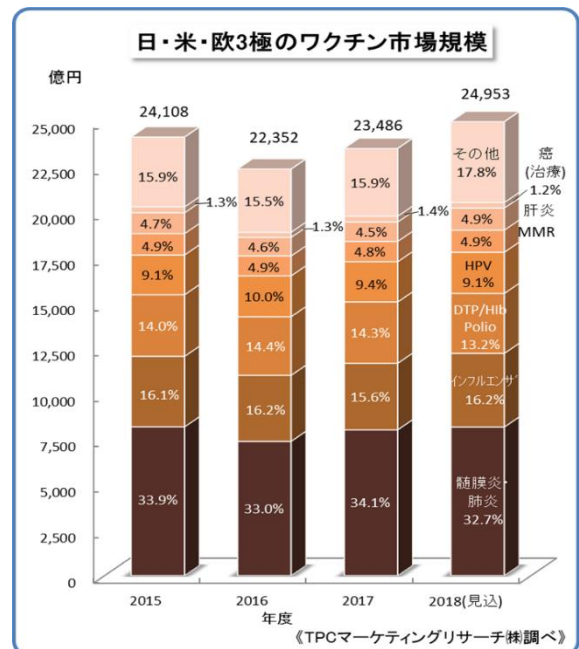
【調査結果】

日・米・欧3極における2017年度のワクチン市場は、

前年度比5.1%増の2兆3,486億円となった。

領域別では、髄膜炎・肺炎領域が8,018億円で最大となった。

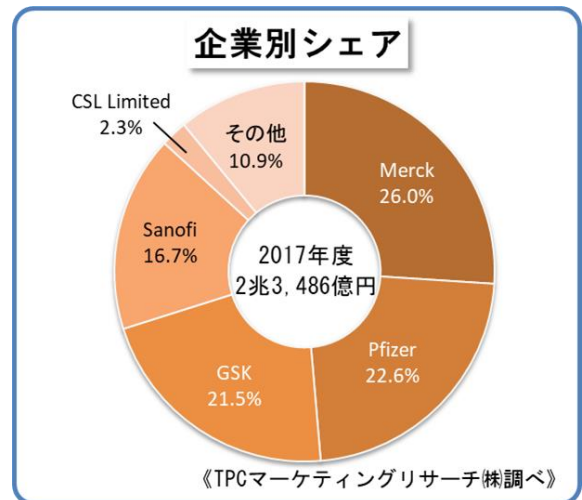
- 日・米・欧3極における2017年度のワクチン市場は、前年度比5.1%増の2兆3,486億円となった。主に髄膜炎・肺炎及びその他領域が拡大している。
- 領域別では、髄膜炎・肺炎領域が構成比34.1%の8,018億円で最大となった。次いで、インフルエンザ領域が同15.6%の3,661億円、DTP/Hib/Polio領域が同14.3%の3,368億円、HPV領域が同9.4%の2,213億円、MMR領域が同4.8%の1,117億円、肝炎領域が同4.5%の1,066億円、癌治療ワクチン領域が同1.4%の320億円などで続いている。
- 髄膜炎・肺炎領域は、前年度比8.6%増となった。同領域では、「Pneumovax 23」、「Bexsero」が市場を牽引している。
- インフルエンザ領域は、前年度比0.9%増となった。米国、欧州において「Fluarix,FluLaval」の売上が好調に推移している。一方で、日本においては、ワクチンに用いるウイルス株の選び直しによる生産の遅延などの影響により、売上が伸び悩んだ。
- DTP/Hib/Polio領域は、3,368億円となった。同領域では、米国、欧州市場における「Boostrix」が牽引役となり、市場全体の売上が拡大している。
- なお、癌治療ワクチン領域の「DCVax-L」は、ドイツで2014年に承認されたものの、治療実施に向けた医療機関や患者との準備が現在も続けられている。このため、同剤の売上は計上されておらず、米国で展開されている「Provenge」のみの売上となっている。



企業別では、Merck がシェア 26.0%の 6,113 億円(54.10 億ドル)でトップとなった。

伸び率では、Sanofi が同 26.6%増(ユーロベース 20.6%増)と 2 桁伸長した。

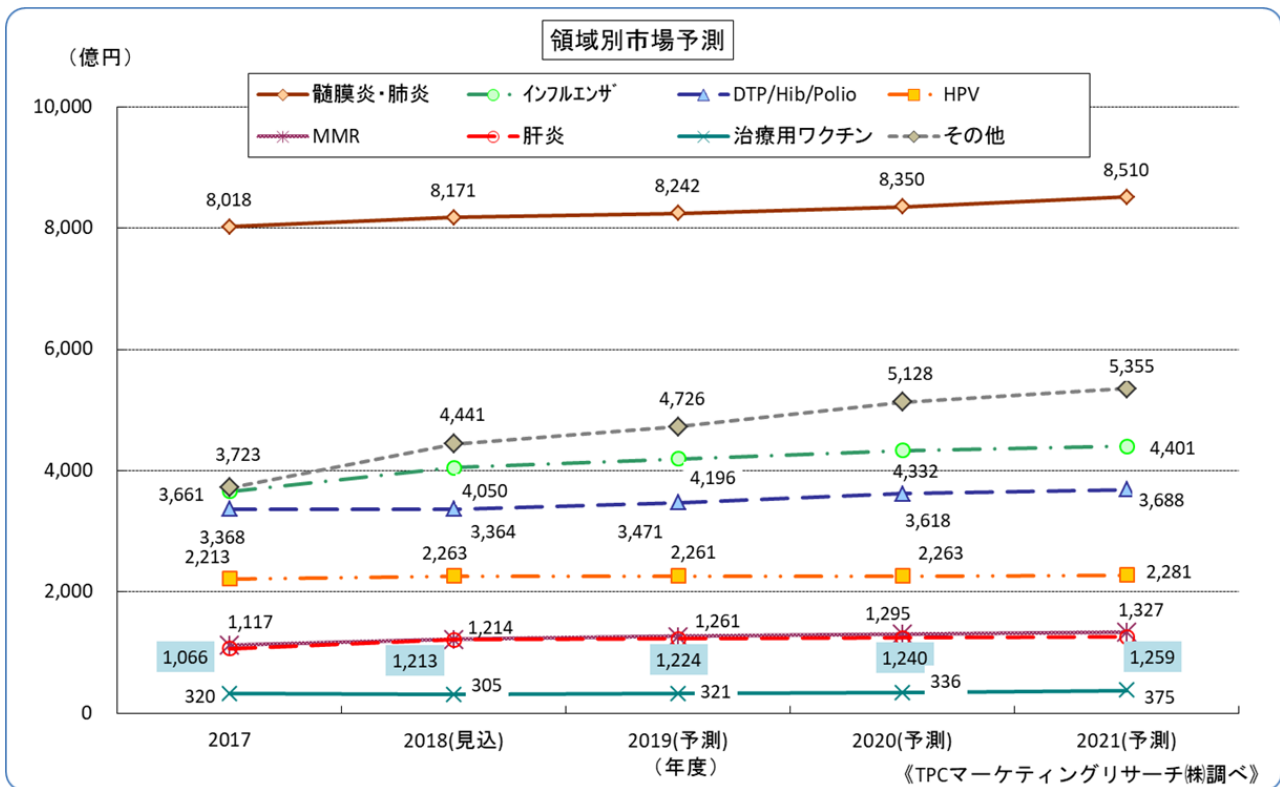
- 企業別では、Merck がシェア 26.0%を占める 6,113 億円(54.10 億ドル)でトップとなった。次いで、Pfizer が同 22.6%の 5,310 億円(46.99 億ドル)、GlaxoSmithKline が同 21.5%の 5,045 億円(34.79 億ポンド)、Sanofi が同の 3,918 億円(30.85 億ユーロ)で続いている。すなわち、上位 4 社で市場全体の 9 割近くを占める状況にある。
- Merck は、前年度比 15.0%増(ドルベース 10.9%増)となった。同社では、米国において主力製品である HPV ワクチン「Gardasil/Gardasil 9」の売上が減少しているものの、「Pneumovax 23」の売上が拡大したことでプラス推移となっている。
- Pfizer は、同 7.2%増(ドルベース 3.4%増)となった。同社の主力品は、肺炎球菌ワクチン「Prevnar 13」である。同剤の米国における売上は減少したものの、欧州における売上が拡大している。
- GlaxoSmithKline は、同 11.9%増(ポンドベース 14.9%増)となった。要因としては、「Boostrix」の売上が大きく伸長したことが挙げられる。さらに、Novartis から獲得した「Bexsero」及び「Menveo」も好調に推移した。
- このほか、Sanofi は、米国及び日本で同 26.6%増(ユーロベース 20.6%増)と 2 桁伸長した。これは、米国におけるインフルエンザワクチン「Fluzone」の売上が好調に推移したことが大きい。



2021 年度のワクチン市場は、

2017 年度比約 16%増の約 2 兆 7,000 億円規模に拡大する見込み。

さらに、髄膜炎・肺炎領域は、2017 年度で同 6.1%増の 8,510 億円となる見通し。



- ・ 日・米・欧 3 極のワクチン市場は、今後 4 年間で約 16%の伸長が見込まれており、2021 年度には約 2 兆 7,000 億円規模へと拡大することが予想される。
- ・ 最も市場の大きい髄膜炎・肺炎領域は、2021 年度で 2017 年度比 6.1%増の 8,510 億円へと拡大する見込み。その要因としては、「Bexsero」及び「Pneumovax 23」が順調に成長するほか、欧州での「Pevnar 13」の安定的な売上があげられる。
- ・ インフルエンザ領域は、同 20.2%増の 4,401 億円となる見通し。同領域においては、3 極における開発中の新薬の上市によって売上の上積みが見込まれる。
- ・ また、その他の領域は、同 43.8%増の 5,400 億円程度となる見通し。これは、「Shingrix」の売上が米国において大幅に拡大されることに加え、同剤の日本市場、欧州市場での発売が予想されるためである。

【調査要覧】

<調査対象>

予防ワクチン[弱毒生ワクチン(Live Vaccine)、不活化ワクチン(Inactivated Vaccine)、トキソイド(Toxoid Vaccine)、サブユニットワクチン(Subunit Vaccine)、結合ワクチン(Conjugate Vaccine)、DNA/RNA ワクチン(DNA/RNA Vaccine)]

治療ワクチン[ペプチドワクチン(Peptide Vaccine,)、タンパク質ワクチン(Protein Vaccine)、細胞ワクチン(Cell Vaccine)、DNA/RNA ワクチン(DNA/RNA vaccine)、細菌ワクチン(Bacterial Vaccine)、その他]

<調査対象企業>

欧米企業編 (Pfizer、GlaxoSmithKline、Sanofi、Merck)

日本企業編 (田辺三菱製薬、アステラス製薬、武田薬品工業、第一三共)

<調査期間>

2018年5月～2018年8月

<資料名>

「2018年 世界のワクチン市場」

—市場を牽引する髄膜炎・肺炎ワクチン—

<http://www.tpc-osaka.com/fs/bibliotheque/mr310180427>

発刊日：2018年8月30日 頒価：97,000円(税抜)

【会社概要】

会社名：TPC マーケティングリサーチ株式会社

所在地：大阪府大阪市西区新町 2-4-2 なにわ筋 SIA ビル

事業内容：マーケティングリサーチおよび調査レポートの出版

コーポレートサイト：<http://www.tpc-cop.co.jp/>

オンラインショップ「TPC ビブリオテック」：<http://www.tpc-osaka.com/>

ISO27001 認証書番号：IS598110

【本件に関するお問い合わせ】

フリーダイヤル：0120-30-6531